

I. 罪を覆う蓋、すなわち、なだめの場所は、(契約の)箱の上にある罪を覆う蓋でした。ローマ第3章25節は、キリストが私たちのなだめの場所であると言っています：

出25:16 その箱の中に、私があなたに与える証しの板を入れなければならない。17 また、純金の罪を覆う蓋を作らなければならない。その長さは二キュビト半、幅は一キュビト半である。18 また、二つの金のケルビムを作らなければならない。打ち物作りで、罪を覆う蓋の両端に作らなければならない。19 一つのケルブを一つの端に、一つのケルブをもう一つの端に作り、罪を覆う蓋の一部として、ケルビムをその両端に作らなければならない。20 ケルビムは翼を上を広げて、その翼で罪を覆う蓋を覆い、顔を互いに向かい合わせて、ケルビムの顔が罪を覆う蓋に向かうようにしなければならない。21 また、罪を覆う蓋を箱の上、その上に載せ、箱の中に、私が与える証しの板を入れなければならない。22 私はそこであなたと会い、罪を覆う蓋の上から、すなわち証しの箱の上にある二つのケルビムの間から、イスラエルの子たちに対してあなたに命じるすべてのことについて、あなたと語る。

出37:6 また、純金の罪を覆う蓋を作った。その長さは二キュビト半、幅は一キュビト半である。7 また、二つの金のケルビムを作った。打ち物作りで、罪を覆う蓋の両端に作った。8 一つのケルブを一つの端に、一つのケルブをもう一つの端に作り、罪を覆う蓋の一部として、ケルビムをその両端に作った。9 ケルビムは翼を上を広げて、その翼で罪を覆う蓋を覆い、顔を互いに向かい合わせて、ケルビムの顔が罪を覆う蓋に向かうようにした。

ローマ3:25 神はこのキリスト・イエスを立てて、なだめの場所とされました。それは彼の血により、信仰を通してであって、彼の義を明らかに示すためです。すなわち、人が以前に犯した罪を、神は寛容をもって過ぎ越されましたが、

A. 旧約における予表として、罪を覆う蓋、すなわち、箱の上の蓋は、至聖所に隠されていました。新約では、キリストは、なだめの場所、すなわち、罪を覆う蓋の実際として、すべての人の前に公に立てられています。

ローマ人への手紙第3章25節でパウロは、キリストは私たちのなだめの場所であると言います。神は、キリストが私たちの「ヒラステリオン」、私たちのなだめの場所であることを表明されました。これが意味するのは、キリストが「ヒラステリオン」であるということ、また彼は神が私たち(彼の贖われた民)と会い、また私たちに話すことができる場所であるということです。ですから、キリストはなだめる方であり、彼はなだめの犠牲であり、彼は罪を覆う蓋であり、神と彼の贖われた民が共に会う場所なのです。

そのなだめは行為であるだけでなく、また場所としてのキリストご自身でもあることを見るのは重要です。ローマ人への手紙第3章25節によれば、神はキリストご自身、パーソンを立てて、なだめの場所とされました。 **1**

このパースンの上で、神は私たちに会うことができ、また私たちは神に会うことができます。

B. 箱は、神がご自身の民と会った場所でした。箱の中には、十戒の律法が入っており、その聖と義の要求によって、神に接触しに来た民の罪を暴露し、罪定めしました。しかしながら、罪を覆う日に、罪を覆う血が振りかけられた箱の蓋によって、罪人の側のすべての状況は、完全に覆われました。

レビ16:14 彼は雄牛の血を取って、それを…罪を覆う蓋の上の、東の面に振りかけ、また罪を覆う蓋の前で、その血を…七たび振りかけなければならない。15 次に、アロンは民のために、罪のためのささげ物のやぎをほふって、その血を幕の内側に持って行き、…それを罪を覆う蓋の上に、また罪を覆う蓋の前に振りかけなければならない。16 彼は…至聖所のために罪を覆わなければならない。

C. ですから、罪を覆うこの蓋の上で、神は、彼の義の律法を破った民と会うことができました。神はこれを、神の栄光を担い、また箱の蓋を覆っていたケルビムが見つめている下でさえ、行政上、彼の義に何の矛盾もなしに、行なうことができました。

D. このようにして、人と神との間の問題は和らげられ、神は人を赦し、人に対してあわれみ深くなり、それによって神の恵みを人に与えることができるようになりました。

E. これが予表しているのは、キリストが神の小羊として、人が神に対して問題を持つようにさせた罪を取り去り、こうして神の聖、義、栄光の要求すべてを満たし、人と神との間の関係を和らげるということです。

F. このゆえに神は、人がかつて引き起こした罪を過ぎ越すことができました。また、神は彼の義を示すために、これを行なわなければなりません。これが、ローマ第3章25節の言っている事です。

G. 箱の蓋のヘブル語は、「カポレス(kapporeth)」であり、「覆う」を意味する語根から来ています。七十人訳では、この言葉は「ヒラステリオン(hilasterion)」と訳されており、それは「なだめの場所」を意味します(「なだめ」とは、赦すこと、あわれむことを暗示します。ヘブル第8章12節で「なだめ」と訳された言葉は、「ヒラステリオン」の語根です。そして、ルカ第18章13節で「なだめ」と訳された言葉は、この語根から派生しています)。

ヘブル8:12 なぜなら、私は彼らの不義に対してなだめとなり、もはや彼らの罪を決して思い出さないからである。ルカ18:13 ところが、取税人は離れて立ち、目を天に向けることもしないで、胸を打ちながら言った、『神よ、罪人の私に対して、なだめとなってください!』。

H. キング・ジェームズ訳は、「あわれみの座(mercyseat)」という訳を採用し、神が人にあわれみを賜わる場所を指しています。ヘブル第9章5節では、パウロは箱の蓋に「ヒラステリオン」という言葉を用いました。ローマ第3章25節でも、同じ言葉である「ヒラステリオン」が用いられており、箱の蓋が、神によって立てられたなだめの場所としてのキリストを表徴していることを示しています。

I. 「ヒラステリオン」に加えて、新約では、同じギリシャ語である「ヒラステリオン」から派生した二つの言葉が用いられており、どのようにしてキリストが人の罪を取り除いて、人と神との間の関係を和らげたかを示しています：

1. 一つは、「ヒラスコマイ(hilaskomai(ヘブル2:17))」であり、その意味は、「なだめること」、すなわち、「和らげること」、一方の要求を満たすことによって互いを和解させることです。キリストは、私たちに対する神の要求を満たすことによって、私たちを神へと和解させました。ヘブル2:17 こういうわけで、彼はすべての事で、彼の兄弟たちのようにならなければなりません。それは、彼が神にかかわる事柄において、あわれみ深い、忠信な大祭司となって、民の罪のために、なだめをなすためです。
2. もう一つは、「ヒラスモス(hilasmos(Iヨハネ2:2,4:10))」であり、その意味は、「なだめるもの」、すなわち、なだめの犠牲です。

Iヨハネ2:2 彼は私たちの罪のためのなだめの供え物です。しかも、私たちの罪のためだけではなく、またすべての世の人のためでもあります。4:10 私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛して、私たちの罪のために、御子をなだめの供え物として遣わされました。ここに愛があるのです。

ヨハネの第一の手紙第2章2節と第4章10節によれば、主イエスは私たちの罪のためのなだめの犠牲です。キリストは、神の要求を満たして神を和らげることによって、私たちを神に和解させる方であるだけでなく、彼はまたなだめの犠牲でもあります。彼はご自身を犠牲とされました。それは、私たちが神に和解させられるためです。

J. キリストは、私たちの罪のためになだめを成就しました。このゆえに、彼は、私たちと神との間のなだめるもの、すなわち、なだめの犠牲となりました。また彼は、箱の蓋によって予表されているように、私たちが神の御前でなだめを享受する場所、神が私たちに恵みを与える場所ともなりました。

カルバリで流された血は至聖所へともたらされ、罪を覆う蓋の上に振りかけられました。旧約によれば、祭壇で流された血はまず祭壇に振りかけられました。これは贖いの完成を表徴します。次に贖い、あるいはなだめが完成された後、この血は至聖所へともたらされ、箱の蓋の上に振りかけられました。これは、神がケルビムの間から人と会い、人と語ることを可能にしました。神が来て私たちと会われるとき、彼の立場は贖う血です。

K. ですから、キリストはなだめを成就する方であり、彼はなだめの犠牲であり、彼はなだめの蓋、すなわち、神と彼の贖われた民が共に会う場所です。

II. 罪を覆う蓋、すなわち、なだめの場所が表徴するのは、キリストが神の義なる律法の蓋であり、またキリストが神が恵みの中で彼の贖われた民に語りかける場所でもあるということです。このゆえに、なだめの

場所は、神の恵みの御座と等しいのです。この恵みの御座、すなわち、神が私たちに恵みを与える場所は、実は牧養するキリストご自身であり、彼は二つのケルビムの間に座しており、また私たちの霊の中に住んでいます：

ヘブル4:16 ですから、私たちがあわれみを受け、また時機を得た助けとなる恵みを見いだすために、大胆に、恵みの御座に進み出ようではありませんか。

罪を覆う蓋は、神の義の律法のおおいとしてのキリストを表徴します。それはまた、神が彼の贖われた民に恵みの中で語る場所としてのキリストを表徴します。ですから、罪を覆う蓋は神の恵みの御座と等しいのです。

今や私たちは、この恵みの御座、神が私たちに恵みを与えられる場所は、実はキリストご自身であることを見なければなりません。おおいのある箱全体がキリストの予表です。これは大きな意義のある事柄です。キリストはすべてを含みます。私たちは、箱の上の罪を覆う蓋がキリストご自身以外のものであると考え、なだめを単にキリストによって達成された行為と考えるべきではありません。繰り返しますが、キリストは箱全体であり、その頂上、蓋を含みます。

詩80:1 イスラエルの牧者よ、耳を傾けてください。ヨセフを羊の群れのように導かれる方よ、ケルビムの間で御座に座しておられる方よ、光を放ってください。

A. 蓋を作るのに用いられた純金は、キリストの純粹で神聖な性質を表徴します。

B. 罪を覆う蓋の寸法は、証しを表徴します。

Ⅲ. 「また、二つの金のケルビムを作らなければならない。打ち物作りで、罪を覆う蓋の両端に作らなければならない」:

A. ケルビムは、神の栄光を表徴します。こういうわけで、罪を覆う蓋の上にあるケルビムは、キリストが神の栄光を表現することを示しています。

B. ケルビムが打ち物作りであったことが示しているのは、キリストが神聖な栄光を表現することが苦難を通してであったということです。

Ⅳ. 「一つのケルブを一つの端に、一つのケルブをもう一つの端に作り、罪を覆う蓋の一部として、ケルビムをその両端に作らなければならない」

A. 二つのケルビムが、罪を覆う蓋の一部であったことが示しているのは、神の栄光が、罪を覆う蓋としてのキリストから輝き出て、またキリストの上に輝いて、証しになるということです。

B. ケルビムの形、大きさ、重さが記載されていないことが示しているのは、キリストの輝きの栄光が計り知れず、奥義的であるということです。

V. 「ケルビムは翼を上を広げて、その翼で罪を覆う蓋を覆い、顔を互いに向かい合わせて、ケルビムの顔が罪を覆う蓋に向かうようにしなければならない」(出25:20) :

- A. ケルビムの翼が、罪を覆う蓋を覆っていたことが示しているのは、神の栄光がキリストの中から表現されて、満ち満ちた証しになるということです。
- B. ケルビムの顔は、互いに向かい合っており、また罪を覆う蓋に向かっていました。これが表徴しているのは、神の栄光が、キリストの行なった事を注視し、観察しているということです。

VI. 「また、罪を覆う蓋を箱の上、その上に載せ、箱の中に、私を与える証しの板を入れなければならない」(出25:21) :

- A. ケルビムと罪を覆う蓋が純金を用いて作られたことが表徴しているのは、キリストが神の栄光の輝きであり、その照らしが神聖であるということです。
- B. 金で作られている罪を覆う蓋が、アカシア材の箱の上に置かれたことが表徴しているのは、キリストの神性ではなく、キリストの人性が、彼が神聖な性質の栄光を表現する基礎であるということです。アカシア材が表徴するのは、キリストの人性が、性格において堅固で、標準において高いということです。

日ごとに私たちは、イエスが人性において流された血によって開かれた新しい生きた道を通して至聖所へと入ることができます。私たちは至聖所へと入って来るとき、すべてを含むキリストに会います。私たちの立場としての贖う血をもって、私たちはキリストの輝く栄光のただ中で神と会い、また神と交わりを持つことができます。その時私たちは神が注入され、啓示、ビジョン、教え、指示を受けます。そこで私たちはこの注入と指示にしたがって歩くべきです。

VII. 「私はそこであなたと会い、罪を覆う蓋の上から、すなわち証しの箱の上にある二つのケルビムの間から、イスラエルの子たちに対してあなたに命じるすべてのことについて、あなたと語る」(出25:22) :

- A. 神が、罪を覆う蓋の上から、また二つのケルビムの間から、彼の民と会い、彼らに対して語ったことが表徴しているのは、なだめるキリストの中で、また彼の証しとしてのなだめるキリストの中から表現された栄光の中で、神が私たちと会い、私たちに対して語るということです。
 - 1. 神がその中で私たちと会い、私たちに対して語る栄光は、キリストの計り知れない、また説明することのできない輝きです。
 - 2. ケルビムと連なっているなだめの場所、すなわち、罪を覆う蓋は、まさしく私たちの愛する主イエスご自身です。神が私たちと会い、私たちと語るときはいつでも、この尊いキリストが私たちと共にいます。実は、この輝くキリストの中で、神は私たちと会い、私たちと語るのです。
 - 3. 重要なのは、なだめが単なる行為だけではないのを見ることです。なだめとはまた、場所としての

キリストご自身です。ローマ第3章25節によれば、神はキリストご自身というこのパースンを立てて、なだめの蓋としました。このパースンの上で、神は私たちと会うことができ、私たちも神と会うことができます。

4. 罪を覆う蓋(なだめの蓋)の上に振りかけられたなだめの血は、蓋の下にある神の義なる律法の要求を満たし、また蓋の上にある神の聖なる性質と輝く栄光との要求を満たし、このゆえに人の良心に平安を与えます。

私たちがなだめの場所の上の贖う血を見つめるとき、私たちの良心は平安です。私たちは、キリストが私たちのために死なれたこと、彼の死のしるしである血が私たちのためになだめの場所の上に振りかけられて、神の義の要求を満たしたことを知っています。そのような時、神は、「子よ、あなたは幸いであるか?」と尋ね、私たちは、「おお、そうです、父よ、私はとても幸いです」と答えます。すると御父は言われるでしょう、「私はあなたよりはるかに幸いである。抱き合って親密な交わりを享受しよう」。これが、証しの箱の上のなだめの場所としてのキリストの経験と享受です。

- B. こういうわけで、罪を覆う蓋と、罪を覆う日にその上に振りかけられた犠牲の血とが描写しているのは、人性における贖うキリスト(彼の法理的な贖い)と、神性における輝くキリスト(彼の有機的な救い)が、墮落した罪人が、義で、聖で、栄光の神と会うことができ、彼の言葉を聞くことができる場所であるということです。これによって、彼らは恵みとしての神を注入され、彼からビジョン、啓示、指示を受け、彼らの日常生活を支配します:

箴29:18 ビジョンがない所では、民は勝手に振る舞う。しかし、律法を守る者は幸いである。

1. 神はキリストの栄光の中で私たちに来るとき、彼の義なる律法の要求を見ず、私たちの罪を見ません。そうではなく、彼は罪を覆う蓋の上の贖う血を見ます。
2. キリストの人性は贖うためであり、彼の神性は輝くためです。罪を覆う蓋の上のケルビムは、キリストの神性を伴う輝きを表徴し、罪を覆う蓋の上に振りかけられた血は、贖いのための彼の人性を表徴します。今や私たちと神は、贖い輝くキリストの中で共に集まり、共に語ることができます。
3. 罪を覆う蓋の上で、また神の栄光の輝きのただ中で、私たちは神の御声を聞き、彼の心の願いを知ることができます。
4. さらに、私たちが主と時間を費やして、彼の尊い血と輝く栄光を認識すればするほど、ますます彼はご自身を私たちの中へと注入します。キリストを生きることは、彼が注入されたことの結果です。

Ⅱコリント3:18 しかし、私たちはみな、主の栄光をおおいのない顔をもって、鏡のように見つめ、そして反映して、栄光から栄光へ、主と同じかたちへと徐々に造り変えられていきますが、それはまさに主なる霊からです。

C. 至聖所で神の注入を受け、神の注入にしたがって歩くクリスチャンは、最も意義のあるクリスチャンです。主の究極の回復におけるクリスチャンであることが、この時代を終結させ、王国の時代をもたらし、究極的に新エルサレムをもたらします。

至聖所で神の注入を受け、神の注入にしたがって歩くクリスチャンは、最も意義のあるクリスチャンです。そのようなクリスチャンであるために、私たちは熱心、敬虔、宗教、道徳、倫理から転向して、完全にキリストに向かう必要があります。… 私たちはまた、私たちが最終の回復の中に、すなわち、地上における神の究極の行動の中にあることを信じます。世界情勢は究極の点に来ています。主の究極の回復はキリストと召会の回復です。それは箱によって予表されたすべてを含むキリストの回復です。しかしながら、私たちは、箱の大きさが完全な単位の半分であることを覚えていなければなりません。これが示すのは、妻が夫のもう一つの半分であるように、箱によって予表されたキリストがもう一つの半分(召会)を持っておられるということです。キリストは花婿であり、召会は彼の花嫁となります。花婿と花嫁をもって、私たちは完全に証しを持ちます。こういう理由で、今日、回復の中で、主はキリストだけでなく、キリストと召会、偉大な奥義を強調しておられます。主を賛美します。私たちは彼の回復の中にいます！ 主は彼の究極の回復によって、この時代を終結させ、王国の時代をもたらされます。

経験: 学生生活編

- ① ローマ3:22 すなわち神の義は、イエス・キリストの信仰を通して、信じるすべての人にもたらされました。そこには何の差別もありません。 23 なぜなら、すべての人は罪を犯したので、神の栄光に欠けており、 24 無代価で、彼の恵みにより、キリスト・イエスにある贖いを通して、義とされるからです。 25 神はこのキリスト・イエスを立てて、なだめの場所とされました。

FN「なだめの場所」: なだめの場所は、出エジプト記第25章17節で、契約の箱の上の、罪を覆う蓋で予表されています。契約の箱は、神が民と会われる場所でした。契約の箱の中には、十戒の律法がありました。それは、その聖と義の要求によって、神に触れるために来た民の罪を暴露し、罪定めしました。しかしながら、罪を覆う日に、契約の箱の蓋の上に罪を覆う血が振りかけられることによって、罪人の側の状態がすべて、完全に覆われました。ですから、罪を覆うこの蓋の上で、神は彼の義の律法を破った民と会うことができました。

神はこれを、行政上、彼の義に何の矛盾もなく、神の栄光を担い、その契約の箱の蓋を覆っていたケルビムが見つめている下でさえ、行なうことができました。こうして、人と神との間の問題は和らげられました。神は人を赦し、人に対してあわれみ深くあり、それによって、神の恵みを人に与えることができるようになったのです。

これは、キリストが神の小羊として、人が神に対して問題を引き起こす罪を取り除き、こうして神の聖、義、栄光の要求すべてを満たし、人と神との間の関係を和らげることの予告です。こういうわけで、人がかつて引き起こした罪を、神は過ぎ越すことができたのです。神は彼の義を明らかに示すために、これを行なわなければなりません。これが、この節で言っていることです。

- ② あなたは信仰によって、イエスの贖いの血の効果を宣言する必要があります。神が彼の行政上、あなたに恵みを与えることができるのは、あなたの良い行いによるものではありません。あなたの良い行いが神をなだめることができると、決して考えてはいけません。あなたの良い行いは、神の義、聖、栄光の要求に対して何の役にも立たないのです。またあなたは、自分の悪い行いによって、キリストの贖いの血に対する不信仰を持ち込んでもいけません。あなたが大胆に至聖所、神の御前に進み出ることができるのは、信仰を通して、贖いの血によって、なだめの場所であるキリストにおいてです。
- ③ あなたは学生生活において、ゲームをすることを制限してください。そうでないと、勉強する時間がなくなってしまう。
- ④ 例えば、あなたはゲームをする時間を15～30分/日に制限すると決めていました。しかし、あなたはルールを破り、1時間以上ゲームに没頭して、宿題を完成させることができなくなっていました。このような時、サタンはあなたを責めて、「お前はダメな役に立たない学生だ。ルールを決めても、何の役にも立たない。」と言ってきます。その結果、あなたは暗くなってしまう。この時、あなたは以下の七つのことを行ってください：
 - a) 主イエスの御名を繰り返し呼び求める。
 - b) 自分の罪を告白し、イエスの贖いの尊い血で、良心を清めていただく。
 - c) 信仰によって、イエスの贖いの血に頼り、大胆に至聖所に進み出る。
 - d) 主イエスの血を、サタンに見せ、彼の訴えを黙らせる。
 - e) 主イエスとの隔てのない親密な交わりによって、神の注入を享受する。
 - f) 神の注入によって歩むとき、あなたは罪、ゲームに没頭することに打ち勝つことができる。
 - g) 内住のキリスト、証しの箱を経験して、証しのある学生生活を送り、友人に福音を伝える。

⑤ 詩歌175 (英224)

1 しゆくはい受けて、さん美あふれる、 わがための血の、なんたる価値よ！ 効き目ある血は、すべて解けつし、 うれしい、おそれを、すべて消し去る。	2 とうとい血にて 基礎づけられて、 しんけいやくは かくりつされた。 あがなわれしは とうとい血による、 この有効な血を、いまわれら飲む。	3 ながされた血は つみをきよめて、 義のようきゆうを すべて満たした。 ゆうこうな血は わがつみあらい、 りょうしんきよめ、かみに奉仕さす。
---	---	--